

あいち病害虫情報 最新情報

令和8年4月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並が多い

名古屋地方気象台4月9日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並か少ない見込みです。

ムギ類の病気（赤かび病）

ムギ類赤かび病は、開花期から乳熟期に降雨が多く、気温が高い（20～27℃）と急激に感染が拡大します。現時点で春先の気温が高く例年に比べてムギの生育が早い状況です。ほ場の生育状況をしっかり確認し、防除適期（開花始期～開花期）を逃さないようにしましゅう。また、既に開花期を迎えたほ場では、1回目（開花期）の防除から7～10日後に2回目の防除を実施し被害防止に努めましゅう。4月1日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参考にして防除を実施しましゅう。

水稻の育苗期防除

普通期栽培のは種作業が始まります。次の1～6に注意して適正な種子消毒に努めましゅう。

- 1 細菌性病害にも効果のあるテクリードCフロアブルなどを用いて、種子消毒を行いましゅう。浸漬処理法の場合、薬液温度は極端な低温にならないようにしましゅう。また、処理濃度と時間を守りましゅう。種子消毒後の廃液は、適切に処理しましゅう。浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、塗沫法などの使用方法に切り替えるか、微生物農薬や温湯種子消毒を利用しましゅう。
- 2 微生物農薬を利用する場合は処理温度に注意しましゅう。
- 3 温湯種子消毒の場合、適切な処理温度、時間（例：60℃、10分）を守りましゅう。
- 4 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理しましゅう。
- 5 催芽温度は30～32℃を守りましゅう。
- 6 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避けましゅう。

落葉果樹の病害虫

ナシ黒星病は4月上旬の巡回調査では花そう基部での発生量は平年並でした。ほ場での発生状況に十分注意するとともに、発病した部位（花そう基部、葉および果実）は見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して適切に処分しましゅう。また、ナシ赤星病の感染時期を迎えていますので、黒星病とともに防除しましゅう。防除の際は、薬剤感受性低下を防ぐため、同

一系統薬剤の連用は避けましょう。

モモを加害するクワシロカイガラムシの防除適期は、1 齢幼虫の発生ピーク時です。本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第 1 号」を参考に、適期に防除しましょう。

モモ灰星病は 4 月上旬の巡回調査で発病花の発生量が多い状況です。発病花は伝染源となるため、早期発見に努め除去しましょう。ほ場内の排水や風通しを良くするとともに、予防的な薬剤散布を心掛けましょう。

果樹カメムシ類の 4 月のフェロモントラップ誘殺数は平年並

4 月から始まったチャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数は平年並です。越冬世代成虫量の詳細は、4 月 6 日発表の「果樹カメムシ類情報第 1 号」を参照してください。名古屋地方気象台 4 月 9 日発表の 1 か月予報によると、気温は高い見込みで、今後本虫の活動が活発になると予想されます。果樹カメムシは、夜温が上昇すると活動が活発になります。今後の園内への飛来状況に注意しましょう。

ナシヒメシンクイの発生に注意！

フェロモントラップによるナシヒメシンクイ越冬世代の成虫誘殺数が多い地域があります(図)。発生ピークは昨年より早く、防除適期を迎えています。4 月 6 日発表の「ナシヒメシンクイ情報第 1 号 (モモ)」を参考に速やかに防除しましょう。トラップデータについてはあいち病害虫情報のウェブページに掲載していますので、参考にしてください。

(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)

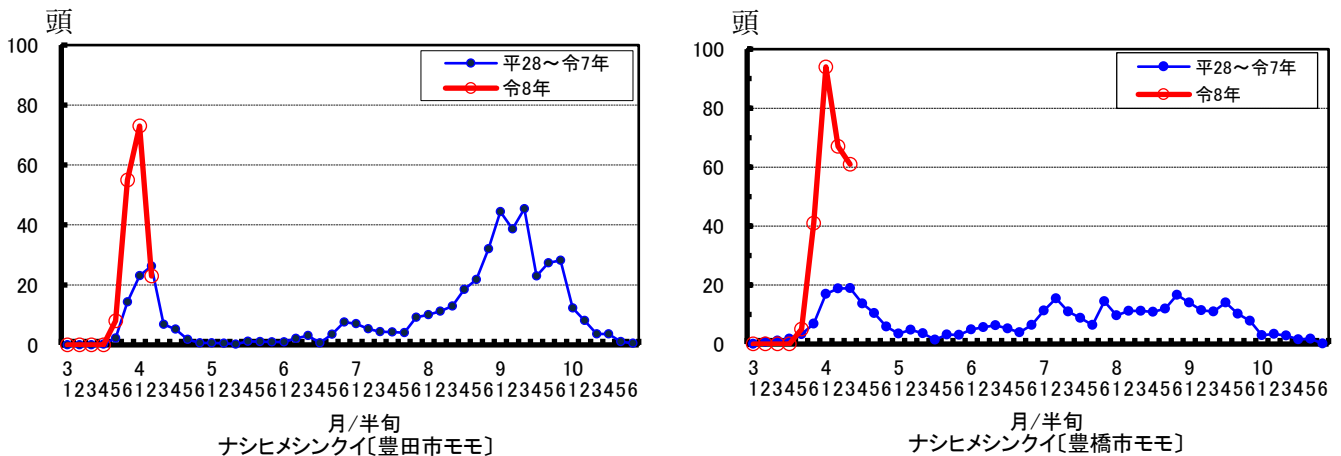


図 フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイの誘殺数

ナスの病害虫

灰色かび病は、4 月上旬の巡回調査で発病果率が過去 10 年で最も多い状況です。施設内の湿度管理に注意し、適切な防除を行いましょ。また、アザミウマ類の発生が多く、気温上昇に伴い発生量がさらに増えるおそれがあります。4 月 6 日発表の「アザミウマ類情報第 1 号 (ナス・キュウリ・イチゴ)」を参考に、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょ。天敵を導入しているほ場では、天敵への影響が少ない薬剤を使用ましょ。

トマトキバガの越冬を確認、発生に注意！

トマト等を食害するトマトキバガは、成虫で体長5～7mm程度の小さい害虫です。県内中山間部で越冬を確認しており、本年2月中下旬には越冬確認地区に設定したフェロモントラップに本虫が多数誘殺されました。気温上昇に伴い、ハウスや露地での発生が懸念されます。令和8年3月23日発表の「トマトキバガ情報第3号」を参考に、ほ場をよく観察し、疑わしい被害が認められた場合はトマトキバガに適用のある農薬で防除しましょう。被害葉及び被害果は適切に処分しましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病や黄化病、キュウリ退緑黄化病や黄化えそ病等のウイルス病対策の基本は、媒介虫を「施設内に入れない」、「施設内で増やさない」、「施設外に出さない」の3つです。収穫期間中は媒介虫であるタバココナジラミ（トマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ退緑黄化病）やオンシツコナジラミ（トマト黄化病）、ミナミキイロアザミウマ（キュウリ黄化えそ病）の防除を徹底しましょう。なお、次作の伝染源を減らすため、収穫終了後は残さを持ち出す前に施設を密閉して、ウイルス媒介虫を死滅させましょう。

フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
